

地域の“わくわく”をつなぐ「さとづくり」～宗像・日の里モデル～

東邦レオ株式会社 / 西部ガス株式会社 /
宗像市 / 独立行政法人 都市再生機構 九州支社

1. ハイブリット型 団地再生

約50年前に開発された、九州最大規模の団地・日の里団地（宗像市）。既存住棟を活用する生活利便エリア（ひのさと48）と、新たに設けた里山を中心とした戸建住宅開発を組み合わせ、ハイブリッド型の団地再生がおこなわれている。国内の多くの団地が抱えている、建物の老朽化、住民の高齢化、空き家の解消といった社会課題に対し、リノベーションした集合住宅を活用した地域とのつながりづくりという、新たなアプローチで課題解決に取り組んでいるのが本プロジェクト「さとづくり48」である。

この度の九州まちづくり賞の受賞に謝意を表し、団地再生プロジェクト「さとづくり48」の活動を紹介します。経緯や概要の詳細については、昨年6月に本誌に掲載された『ハイブリッド型団地再生「宗像・日の里モデル」の取組』を参照いただきたい。

2. 人と人をつなぐ結節点「ひのさと48」

活動の拠点となるのは、住棟の48号棟を改修した生活利便施設「ひのさと48」。ビール醸造所やDIY工房、カフェ等、地域に開かれたコミュニティスペースを展開している。その他の空室はテナントとして活用し、現在、認可保育園や福祉療育施設、楽器工房等、多様な施設が入居している。

2022年3月にはWONDERBASEという有料で貸し出す活動スペースをオープンした。従来のコワーキングスペースのようにただ空間を共有するだけでなく、周囲を巻き込んで活動を共におこすCo-Doing（共創、協働）を目的とした場となっており、地域に根差した新たなチャレンジや事業が生まれることを期待している。福岡県サテライトオフィス開設支援事業にも採択されており、福岡県と移住促進や関係人口創出に向けた取り組みを行うことを予定している。

3. 子どもたちの夢をかなえた壁面クライミング

近隣の小中学校の総合学習の一環として、子どもたちが日の里でやりたいことを提案し、大人たちが全力で形にする取り組みをおこなっている。その第一弾がひのさと48の壁面を使ったクライミングウォール。設置を目標にクラウドファンディングをおこない、2021年9月に設置工事が完了、11月に運用を開始した。自分たちの働きかけで街が変わるという経験を通して、子どもたちが故郷を愛し、地域の担い手となるきっかけになればと願っている。

4. おでかけ48

日の里地区の公園等で、ひのさと48内のカフェで販売

している弁当や惣菜、宗像産の野菜等を販売する「おでかけ48」を毎月開催している。日の里地区の居住者を対象とし、外出や買い物の機会をつくることで、身体的健康の促進や、社会と繋がっている安心感からもたらされる精神的健康の促進を目指している。また、我々の活動を知ってもらい、日々の生活に少しでも楽しみや彩りを加えることに繋がればと考えている。

5. 今後の展望

我々が重視しているのは、地域の記憶や愛着を大切に残しながら、地域の“わくわく”をつなぎ、地域の方々と共に新しいことに挑戦していくこと。具体的な企画を最初に作りすぎず、あえて余白を残し、地域住民と一緒につづいていく「さとづくり」を進めている。

テレワークの推進により、働く場を自由に選べ、職住同一で過ごす人も増えている。これまでの大都市一極集中から、地方への人口の分散化が進むことが予想されるアフターコロナ。従来のような「ベッドタウン」から脱却し、魅力的な住環境の中で趣味を楽しんだり、仲間と集まって遊んだり、仕事場として活用したり、「暮らしを楽しむ」生活スタイルを日の里で実現していきたい。

朝のフラダンスを楽しむ地域住民



完成したクライミングウォール

